

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

| | | | | |
|---------------|--|-----|-------------|---------|
| 科目名(英) | 研究ゼミナールA (Seminar of Study A) 【井上研究室】 | | 授業コード | L120409 |
| 担当教員名 | 井上 正文 | | 科目ナンバリングコード | L31204 |
| 配当学年 | 3 | 開講期 | 前期 | |
| 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 2 | |
| 履修上の注意または履修条件 | 井上研究室に配属された学生のみ履修することができます。 | | | |
| 受講心得 | 卒業論文の前段階としての、木質構造に関する基礎的学習及び学びの重要性を理解するため、対話形式や学外での学習も併せて実施する。すべての授業に出席することが重要である。 | | | |
| 教科書 | その都度、資料を配布するなどして、提供する。 | | | |
| 参考文献及び指定図書 | その都度、適切な図書を紹介する。 | | | |
| 関連科目 | 構造設計1 | | | |

| | |
|-------|------------------------------|
| 授業の目的 | 木質構造に関する卒業論文の基礎的内容を多面的に学習する。 |
| 授業の概要 | 木質構造に関する基礎から応用までの、多面的に学習する。 |

| ○授業計画 | |
|-----------------------|-------------|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第1週：学ぶことの意義と重要性 | 復習：90分 |
| 第2週：社会人としての振る舞い | 復習：90分 |
| 第3週：木材利用と地球環境 | 復習：90分 |
| 第4週：木造建築の事例紹介1 | 復習：90分 |
| 第5週：木造建築の事例紹介2 | 復習：90分 |
| 第6週：木造建築の事例紹介3 | 復習：90分 |
| 第7週：木造建築の建設工程(理論) | 復習：90分 |
| 第8週：木造建築の建設工程(実際) | 復習：90分 |
| 第9週：木質構造に関する課題(材料) | 復習：90分 |
| 第10週：木質構造に関する課題(加工) | 復習：90分 |
| 第11週：木質構造に関する課題(乾燥) | 復習：90分 |
| 第12週：木質構造に関する課題(木材流通) | 復習：90分 |

| | |
|----------------------|------------------|
| 第13週：木質構造に関する課題(耐久性) | 復習：90分 |
| 第14週：木質構造に関する課題(耐火性) | 復習：90分 |
| 第15週：木質構造に関する課題(接合部) | 復習・90分 |
| 第16週：口頭による理解確認 | 復習：90分 |
| 授業の運営方法 | (1)授業の形式 「演習等形式」 |
| | (2)複数担当の場合の方式 |
| | (3)アクティブ・ラーニング |
| 地域志向科目 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------|--------------------------------------|
| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 | |
| 【関心・意欲・態度】 | 自ら学ぶ姿勢を身に着ける |
| 【知識・理解】 | 卒業研究に取組めるための木質構造に関する基礎知識を身につける |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | 自分が身に付けた知識を分かりやすく専門外の人に説明できる |
| 【思考・判断・創造】 | 基礎的知識を使って、自ら課題を認識して、その解決策を思考することができる |

| | | | | |
|---|-----------------|---------------|--------------|----|
| ○成績評価基準(合計100点) | | | 合計欄 | 0点 |
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | 期末試験・中間確認等(テスト) | レポート・作品等(提出物) | 発表・その他(無形成果) | |
| 【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | | 30点 | |
| 【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。 | | 30点 | | |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | | 30点 | |
| 【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。 | | | 10点 | |

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

| | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 | |
| 成績評価方法 | 評価の実施方法と達成水準の目安 |
| レポート・作品等(提出物) | 身に着けた知識を筋道たてて説明するための資料の作成ができる |

発表・その他
(無形成果)

対面での、質問に的確に回答できる